

平成28年(2016年)12月期 決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

(証券コード:3386)

2017.2.17

www.cosmobio.co.jp



目次



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

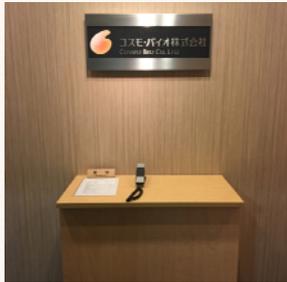
1. 会社概要と事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
2. 2016年事業環境の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ p.8
3. 2016年の取り組み成果および決算の概要・・ p.13
4. 2017年の取り組みおよび業績予想・・・・・・ p.27

1. 会社概要と事業の内容

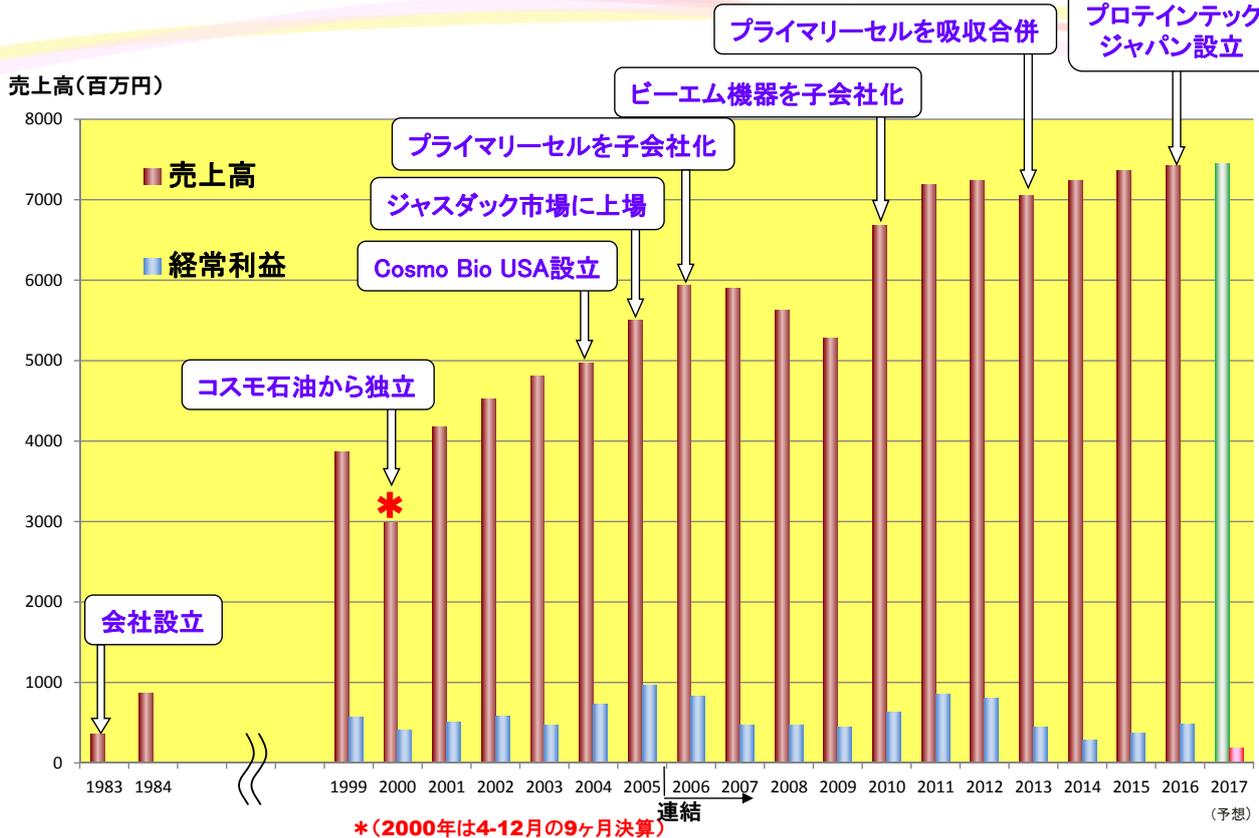
www.cosmobio.co.jp

会社概要



社名:	コスモ・バイオ株式会社	
業種:	卸売業	
上場市場:	東京証券取引所JASDAQ	
コード:	3386	
本社所在地:	東京都江東区東陽二丁目2番20号	
代表者:	代表取締役社長 櫻井 治久	
設立:	1983年8月25日	
事業内容:	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、臨床検査薬の仕入(一部自社製造)及び国内・海外販売	
資本金:	918百万円	
事業年度:	1月1日から12月31日まで	
従業員数:	連結:127名 個別:99名 (2016年12月31日時点)	
連結子会社:	ビーエム機器株式会社	
非連結子会社:	COSMO BIO USA, INC. 株式会社プロテインテック・ジャパン	

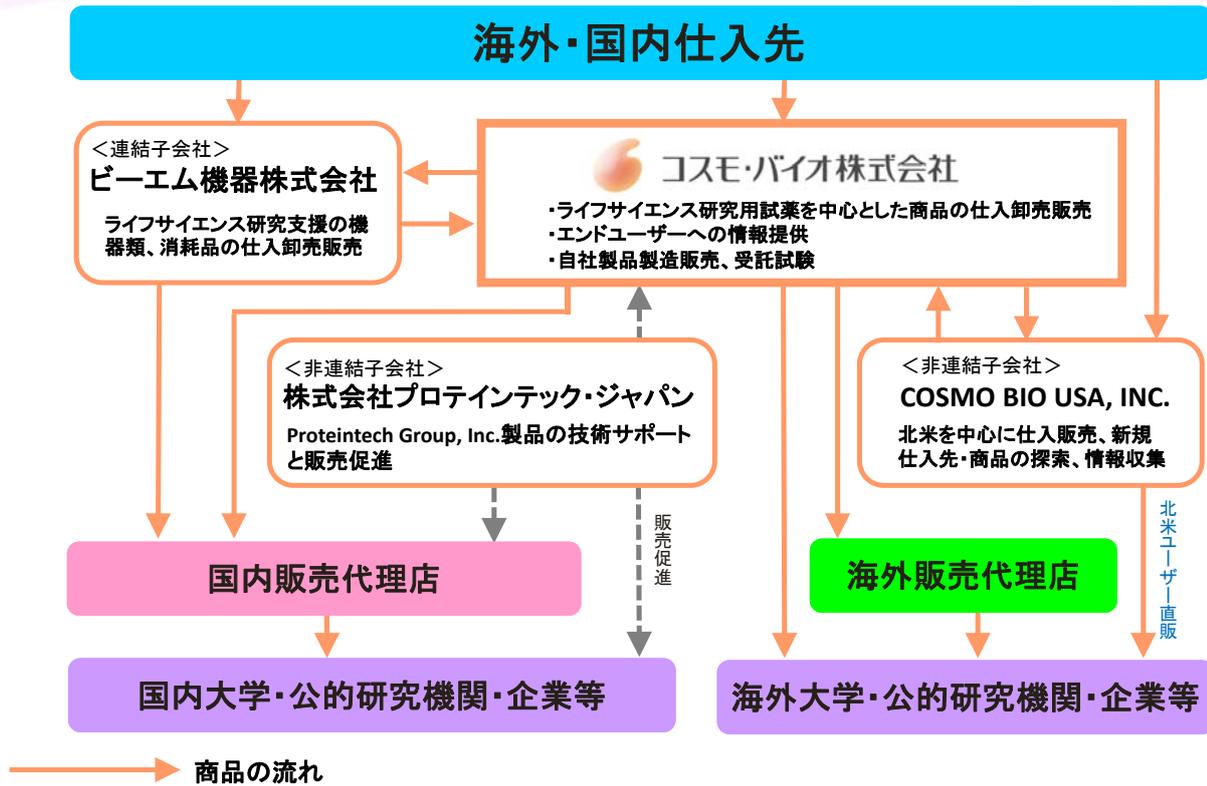
当社の歩み



ライフサイエンス研究を支援する専門商社

研究者と仕入先を結ぶ
コスモ・バイオ





2. 2016年事業環境の概要

2016年事業環境について

当社を取巻く環境

大学・公的研究費動向

企業研究費動向

コスモ・バイオ株式会社

競合会社

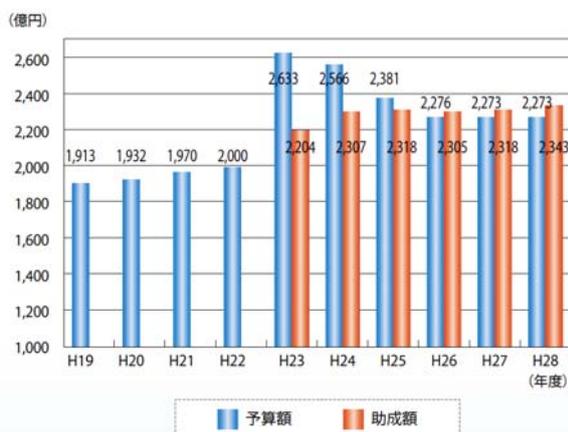
為替相場

2016年事業環境について

大学・公的研究機関

2016年度科研費の助成額は2,343億円であり、前年比25億円の増額。
また、2004年度(平成16年度)の国立大学等の法人化以降、2015年度までほぼ毎年度減少してきた国立大学法人運営費交付金だが、2016年度は第3期中期目標期間の初年度であることへの特別配慮として、前年比と同額の10,945億円になった。

● 科研費の予算額・助成額の推移



国立大学法人運営費交付金予算額の推移



2016年事業環境について

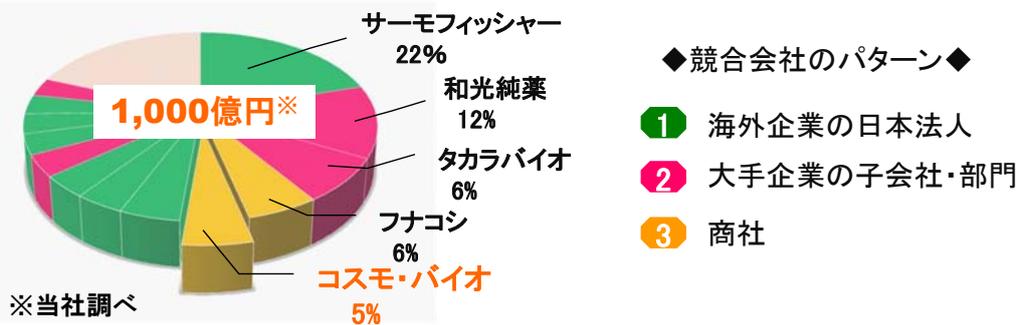
民間企業

医薬品企業関連においては、業種別研究開発費の調査によると、2016年度は対前年比微減の予測であった。反面、「メディカル」や「ライフサイエンス」をキーワードに、新規事業などに取り組む化学・素材関連等の異業種参入企業数が増えていることもあり、ライフサイエンス研究需要の増加が予想されたが、民間企業からの基礎研究分野の資金投資は微増から横ばい傾向だった模様。

競合会社

市場の伸び悩みに伴い、シェア獲得のための価格競争が慢性化。

ライフサイエンス研究用試薬の市場規模



◆ 競合会社のパターン ◆

- 1 海外企業の日本法人
- 2 大手企業の子会社・部門
- 3 商社

2016年事業環境について

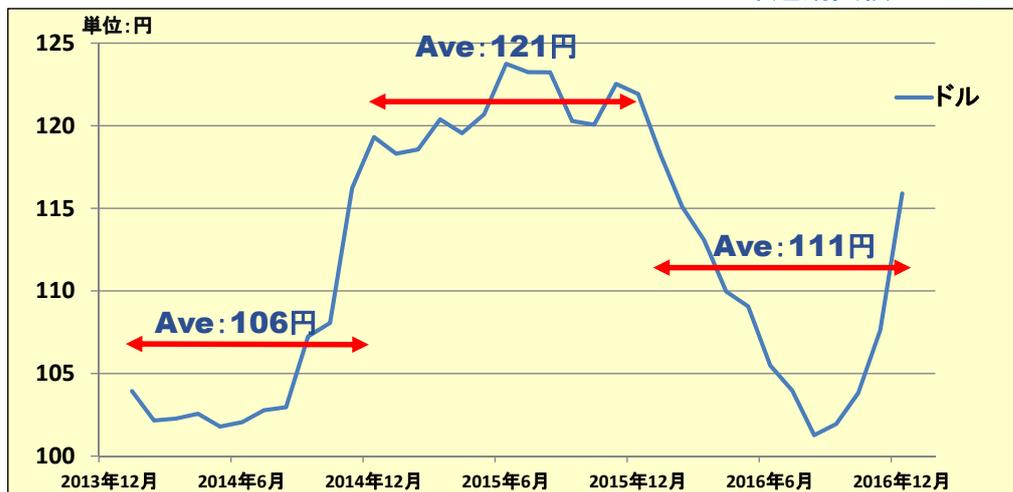
為替相場

2016年は、2015年の円安基調から一転して、EU問題や米国大統領選の影響もあり、大幅な円高に推移したが、大統領選後に大幅な円安に。振れ幅の大きかった為替変動が利益に大きく影響。

〔2016年通期当初予想 125円/ドル
2016年下期予想 110円/ドル*〕

*8/5の業績予想修正で、当初予想125円/ドル→110円/ドルへ変更

2016年通期実績 111円/ドル



3. 2016年の取り組み成果および決算の概要

www.cosmobio.co.jp

2014年からの取り組み(3ヶ年計画)

「成長と信頼の研究支援会社の実現」

顧客満足度の追求

研究動向にあった商品・サービスの導入、製品開発の強化、顧客の求める情報提供の充実

業容の拡大

販売、商品開発、業務効率化・強化のための投資
仕入先との関係強化・提携等の推進

経営基盤の安定化

株主資本、経営資本の安定、事業リスクの低減化(仕入先M&A、
為替、法規制等のリスク)

2016年の課題

・中期経営計画最終年度であり、ビジョンである「信頼される研究支援会社として成長する」のために、中期経営計画の基本施策を継続実行し、以下の重点目標に取り組む。



重点目標

- ▶ 市場低迷・円安環境での収益伸長
- ▶ グループ間での連携強化
- ▶ 新たなビジネスモデルへの投資

2016年の取り組み成果

市場低迷・円安環境での収益伸長

- ① 営業活動の強化・・・営業体制を見直し、営業の効率化と優良顧客への密着度を向上。
ユーザー訪問数は前年からさらに約50%UP。
- ② 市場シェアの拡大・・・大手仕入先との契約終了が影響し、微増に留まる。
- ③ 利益性を考慮した仕入および販売・・・受託系サービスの売上は、前年に引続き目標金額を達成。
- ④ 輸出売上のアップ・・・Webリニューアル後、目標訪問者数を達成。売上は二桁増。

グループ間での連携強化

- ① 取扱い商品の整理
グループ全体での販売強化の一環として、機器・消耗材関連商品メーカーの一部取扱いを、子会社であるビーエム機器(株)へ移管。また、今回の移管にともない、当社物流センターの一部相互利用を開始。
- ② 管理系業務の見直し
ビーエム機器(株)の管理業務の一部を当社が受託。
- ③ 業務効率化
新基幹システム(SAP)を10月から稼働。ビーエム機器(株)と基幹システムを統合。

2016年の取り組み成果

新たなビジネスモデルへの投資

【合弁会社の設立】

11月22日、仕入先であるProteintech Group, Inc. (米国)と、合弁会社である株式会社プロテインテック・ジャパン を設立。

→ 日本におけるProteintech Group, Inc.製品の技術サポートと販売促進事業。



【研究開発促進】

NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構)の2016年度(平成28年度)「中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業」に採択される。

テーマ:「鶏卵バイオリクターを用いた組換えヒト サイトカイン試薬製造」

2016年の取り組み成果

新たなビジネスモデルへの投資

【新規事業の立ち上げ】

12月、研究用ペプチドの受託合成サービス事業および抗体の受託製造サービス事業に本格参入。自社にて生産を開始。

→ 自社製品ブランド力の向上や、既存商品・サービスとのシナジー効果を期待。



<ペプチド合成設備>

【札幌事業所拡張プロジェクト始動】

現在、自社製品製造を担っているプライマリーセル事業部(所在地:札幌)の事業拠点が2箇所に分散していることと、新たに加わったペプチド・抗体事業と今後の更なる事業の拡大に備えるため、札幌に於ける事業拠点の統合・拡張に着手。

連結業績ハイライト

売上高

【予想比】*	(+) 価格是正
← 2.3%減	(+) 高付加価値商品の販売増
【前年比】	(-) 大手仕入先との契約終了
↑ 1.0%増	(-) 価格競争の慢性化

親会社株主に帰属する当期純利益

【予想比】*	(+) 高付加価値商品の販売増
↑ 6.0%増	(+) 販管費の節減
【前年比】	(+) 原価率の下降
↑ 10.4%増	

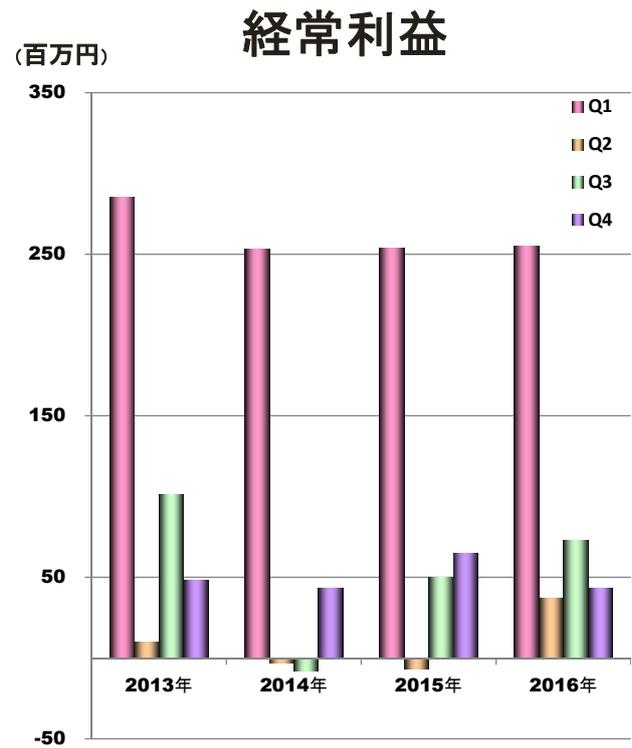
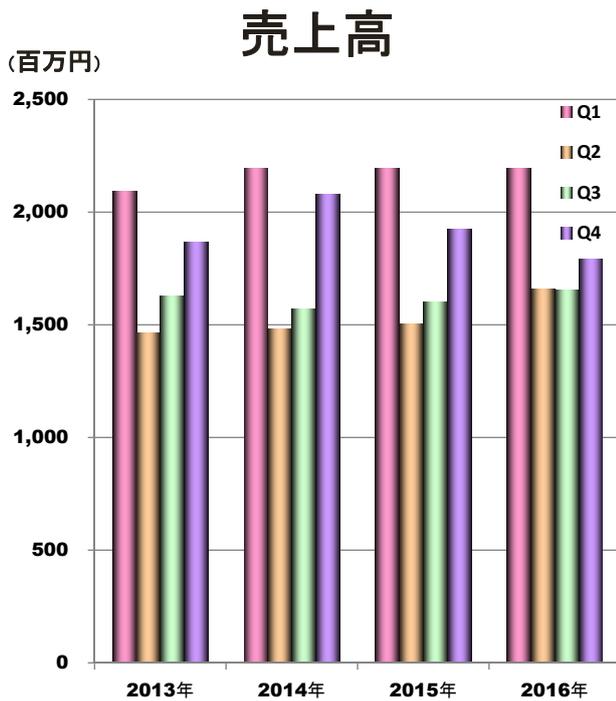
* 8/5発表の業績予想修正より算定しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

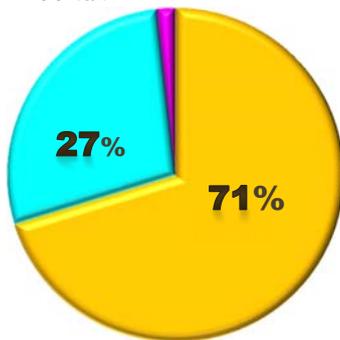
	2015年	2016年	増減額	増減率
	実績	実績		
売上高	7,357	7,427	70	1.0%
売上総利益	2,380	2,772	391	16.4%
営業利益	200	514	313	156.3%
経常利益	373	483	110	29.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	230	254	23	10.4%

四半期別動向(売上高、経常利益)

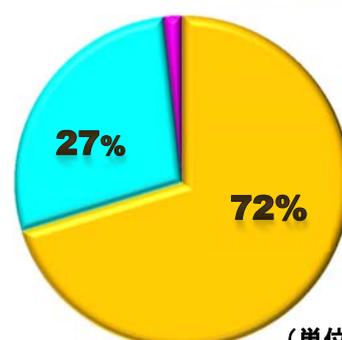


商品分類別連結売上高

2015年実績



2016年実績



(単位:百万円)

連結	2015年実績		2016年実績		増減額	増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比		
研究用試薬	5,217	70.9%	5,309	71.5%	92	1.8%
機器	2,002	27.2%	1,971	26.5%	△30	△1.5%
臨床検査薬	137	1.8%	146	2.0%	8	6.2%
合計	7,357	100.0%	7,427	100.0%	70	1.0%

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2015年12月末	2016年12月末	増減額	
資産合計	7,790	7,934	143	
流動資産計	5,266	5,495	229	注1
固定資産計	2,523	2,438	△85	注2
負債純資産合計	7,790	7,934	143	
負債計	1,412	1,352	△59	
純資産計	6,378	6,581	203	注3
自己資本比率	76.4%	77.3%		

注1 現預金の増加+549、有価証券の減少△99:主に社債の償還

注2 投資有価証券の減少△252:主に有価証券への振替
有形固定資産の増加+92:主に新規事業設備の取得

注3 利益剰余金の増加+159

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

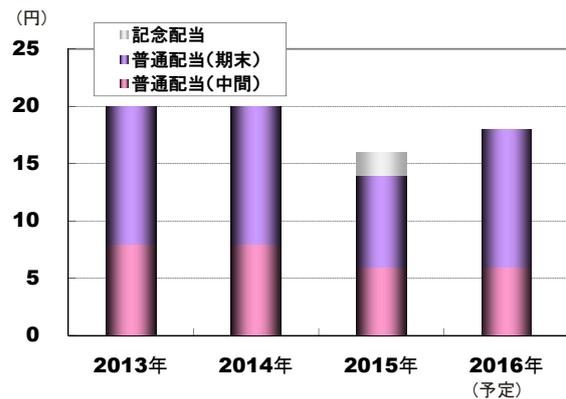
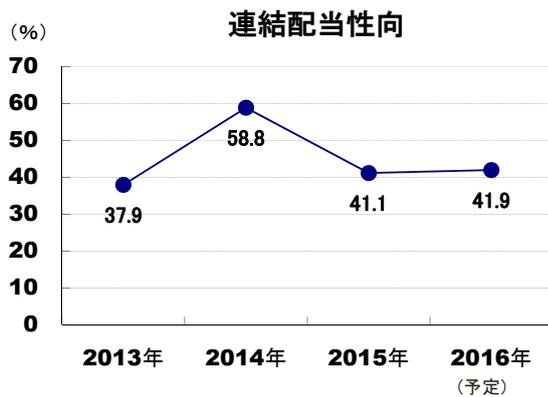
	2015年 実績	2016年 実績	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	129	573	444	注1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△263	99	362	注2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△151	△107	44	
現金及び現金同等物の増加額	△285	549	835	
現金及び現金同等物期末残高	1,098	1,648	549	

注1 純利益の増加

注2 社債の償還および保有投資有価証券の売却

配当について

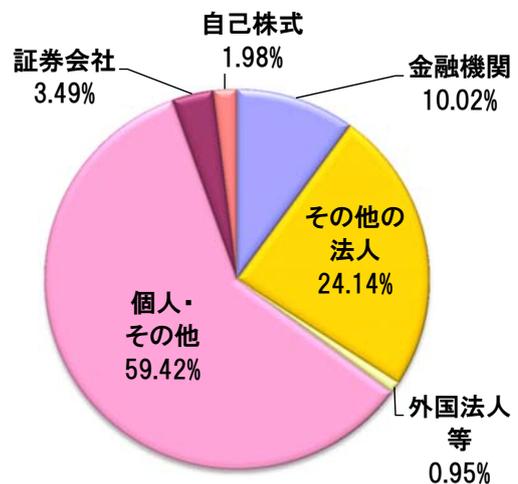
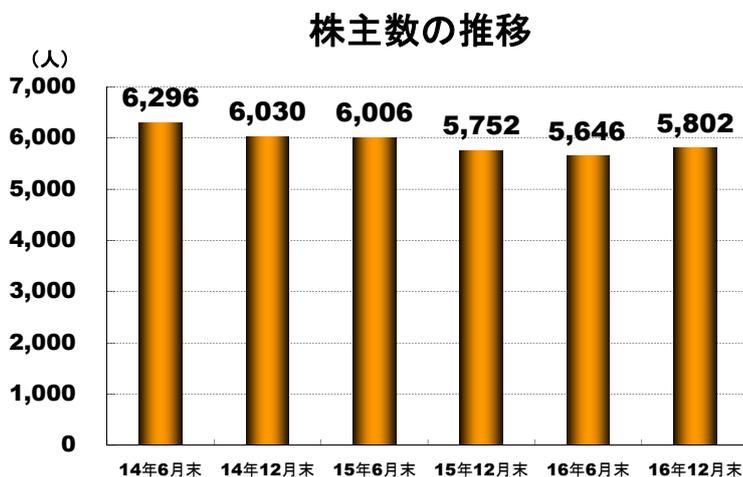
	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2016年 12月期	6円	12円(予定)	18円(予定)
2015年 12月期	6円	10円 記念配当2円含む	16円
2014年 12月期	8円	12円	20円
2013年 12月期	8円	12円	20円



株式の状況(2016年12月末現在)

発行可能株式総数	18,361,600株
発行済株式の総数	6,048,000株
自己株式数	120,000株

所有者別株式分布状況



4. 2017年の取り組みおよび業績予想

www.cosmobio.co.jp

© 2017 Cosmo Bio Co., Ltd.

27

2017年事業環境について



大学・公的研究機関

2017年度政府予算案のうち、バイオテクノロジー関連予算は2016年度予算比1.7%増の約2560億円(*)。そのうち、AMED(日本医療研究開発機構)対象の予算は、前年と同額の1,263億円。2017年度科研費の予算は、2016年度比11億円(0.4%)増額の2,284億円。削減が続いていた国立大学法人運営費交付金は1兆970億円で、2016年度比25億円(0.2%)の増額。また、2017年度から順次、科研費の制度が変更される。

民間企業

医薬品企業関連においては、再生医療事業等の新規事業などに取り組む化学・素材関連等の異業種参入企業数の増加、大手製薬やバイオ企業による有望ベンチャー等へのM&A活動の活発が予想されるが、基礎研究分野の資金投資は微増から横ばい傾向が継続すると予想。

競合会社

市場の伸び悩みに伴い、シェア獲得のための価格競争は継続。

為替

通期は115円を想定(2016年通期実績111円)。

*日経バイオテック調べ

© 2017 Cosmo Bio Co., Ltd.

28

2017年からの取り組み(3ヶ年計画)

コスモ・バイオグループは、生命科学の進歩・発展への貢献を使命とし、ひろく生命科学研究に携わる皆様から、研究と技術開発のパートナーとしての信頼を受けることで事業を成長させます。

それを実現させるために、

「生命科学の研究者に信頼される事業価値を高める」

をビジョンに掲げ、ユーザーである研究者からの信頼を重要課題として、以下の3つの施策に取り組みます。

既存事業基盤の強化

新たな事業の創出

企業価値の向上

2017年からの取り組み

「生命科学の研究者に信頼される事業価値を高める」

既存事業基盤の強化

当社の持つ2つの機能を強化

商社機能

情報力 [Information]

: お客様にとって知りたいことがすぐ判る情報を発信します。

製品力 [Product]

: ユニークな商品・サービスを導入し、迅速にお届けします。

提案力 [Communication]

: 課題解決型営業の強化に取り組みます。

メーカー機能

開発力 [Development]

: 自社製品・自社サービスを開発・拡充します。

新たな事業の創出

新規事業の創出

既存事業の伸長に加えて、従来とは異なる成長分野を積極的に開拓し、事業基盤の拡張に取り組めます。

資本・業務提携：

市場での競争力を維持・強化、あるいは事業拡大やコスト削減の効果を客観的に評価して、他企業との協働の機会を損なうことの無いように備えます。

* 札幌事業所拡張プロジェクト

既に着工済みであり、2017年9月より稼働開始予定。

研究用試薬の開発のみならず、将来の事業基盤となる技術開発を強化。

企業価値の向上

業務効率化

就業環境の向上を目指して、あらゆる角度から業務を見直し、合理化と効率化を図ります。

人事評価制度改革

従業員の業務目標設定から、成果と結果の評価まで、業務価値の評価を本人と共有し、就業意欲の向上と事業の成長をつなげる人事評価制度を構築します。

リスク管理

障害となる要素を常に監視し、予防的対応を継続します。更に、障害が発生した際に、損失を最小に抑え、障害を排除する工程を備えます。

CSR活動

当社グループは、様々な社会活動に参加することも、企業としての経済活動を越えて重要な社会的責務であると位置づけ、能動的な社会貢献に継続して取り組めます。

2017年12月期の連結業績見通し

(単位:百万円)

	16/12月期 実績	17/12月期 予想	対前年比	
			増減額	増減率
売上高	7,427	7,500	72	1.0%
営業利益	514	115	△399	△77.6%
経常利益	483	180	△303	△62.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	254	105	△149	△58.7%
売上高経常利益率	6.5%	2.4%	—	—

平均為替レート	16/12月期 実績	17/12月期 予想
円/USドル	111円	115円

	16/12月期 通期(予定)	17/12月期 中間(予定)	17/12月期 期末(予定)
配当額	合計 18円	6円	8円

ご注意

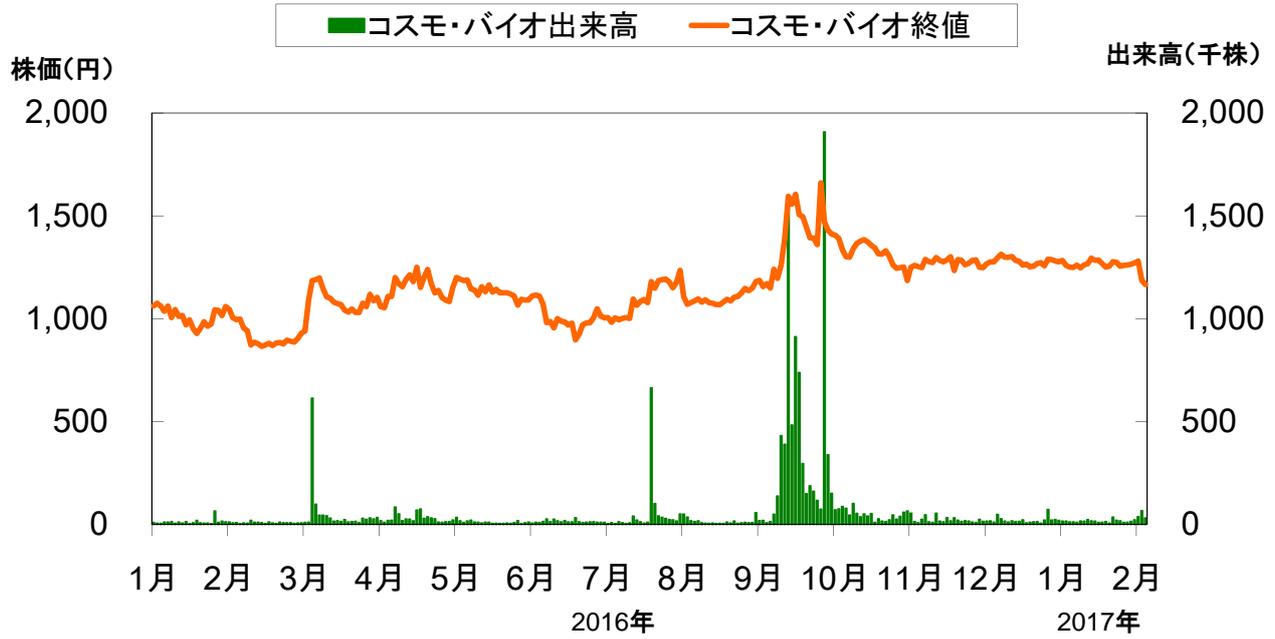
- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
 コスモ・バイオ株式会社 経営企画室
 ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<http://www.cosmobio.co.jp/ir>

ご参考:

株価推移(2016/1/4~2017/2/16)



昨日(2月16日)の終値:1,166円